

単元名

みんなの ビオトープ

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)
◎命と伝統をつなぐとは、どういうことだろう。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)
●地域の自然やビオトープのよさを知ってもらうために、自分達ができることは、何だろう。

【単元の目標】
宮園の豊かな地域の自然に触れたり、ビオトープに行き生き物を観察したり、植物を育てたりする活動を通して、自ら設定した課題解決に向けてグループで協力しながら活動に取り組むことによって、宮園ビオトープのよさを広く伝えることができる。

【連携諸機関・人物】
・宮園ビオトープの会
・トンボ博士
・鳥博士
・カブト虫博士
・虫博士
・宮園市民センター
・日本生態系協会

活動の概要

宮園小学校には、地域と学校と保護者で創り上げ、受け継いできたビオトープがある。ビオトープの会の方と野菜を育てたり、生き物を観察したり、生き物博士の話の聞いたりする活動を通して、課題『ビオトープのよさを知ってもらうために、自分たちができることを考えよう。』を設定した。実際には、全体で、ビオトープ啓発のためのリーフレット作りを行った。また、グループ(生き物図鑑・ビオトープと環境・ビオトープの清掃や腐葉土作り・自然遊び体験・ビオトープ内の看板作り)に分かれて、それぞれの活動を行い、自校の低学年をビオトープに招待したり、リーフレットを作成し、校内や地域に配布したりするなどの活動を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、地域資源等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用等



<ビオトープの紙芝居><キャベツ植でしかけ作り><ヤゴ救出作戦> <昆虫採集> <各グループ活動><感謝の会・低学年への発表><リーフレット>
・ビオトープで実際に野菜や虫の観察をするなどの体験活動を行ったことで、児童が自然のよさを体感し、課題意識を持って主体的に活動に取り組んだ。
・自分たちが取り組みたい課題を出させ、興味・関心のあるグループで活動を行うという学習形態をとったことで、児童が主体的・計画的に活動した。また、自分たちで地域の方と一緒に地域の財産であるビオトープで活動を行ったことで、地域への愛着を深めた。
・理科(春・夏の自然に飛び出そう・チョウ・ヤゴを育てよう)や国語(レポート・リーフレット作り)など、他教科で学んだ知識や技能を相互に関連付けながら、横断的・計画的に活動を行った。
・児童の達成感の向上につなげるために、調査や活動して分かったことや感じたことを、全体でリーフレット1枚にまとめ、保護者や児童、地域に配布したことで、他者からのリアクションを受け取ることができるようになった。

児童生徒の姿(○)、児童生徒による振り返り(◇)

○宮園小学校のビオトープは、地域みんなで作った宝物であるという意識をもち、これからも生き物や地域の憩いの場として大切にしていきたいという思いをもった。
○それぞれのグループが、ビオトープに興味を持ってもらえるように、多方面から紙芝居やクイズ、スライドなどで活動や調べたことをまとめ、相手を意識しながらリーフレットにまとめることができた。
◇児童の振り返りには、自然のよさや生き物の成長に対する驚きなどを感じているものや、ビオトープが、生き物や植物の大切な住処であると共に、自分達の心を癒す場所だから、ずっと大切に守っていききたい、というような、願いに関わるもの、地域の財産として、受け継いでいくために、自分の出来ることをしてきたいという記述が多く見られた。